

環境・ ライフライン カンパニー

概要

環境・ライフラインカンパニーは、日本国内で有数のシェアを誇る給排水管や、建設部材の生産・販売を基盤事業とするカンパニーです。

2017年度を初年度とする中期経営計画より、事業ポートフォリオを一新し、「配管・インフラ」「建築・住環境」「機能材料」の戦略3分野から構成される新たな戦略ポートフォリオを設定しました。

それぞれの分野で製品のおかれている市場環境・競争環境を踏まえて、「海外」「成長」「基盤」「改革」といった戦略を推進していきます。

特に「成長」「海外」においては、長年にわたって基盤事業で培った技術をベースとした高付加価値な製品を積極的に投入し、金属・木材・ガラスなどの異素材の代替を通じて領域拡大を推進していきます。

プレジデント方針

Be reborn, UIEP !

～with new success story for the next decade～

(1) 成長戦略の加速化・重厚化

(2) ビジネスリスクの最小化



平居 義幸

環境・ライフラインカンパニー
プレジデント

トピックス

2018年 4月 生産子会社の経営統合および社名変更
～東日本積水工業株式会社を設立～

2018年 5月 オメガライナー工法が「環境・設備デザイン賞」にて最優秀賞を受賞

2019年 3月 高付加価値塩ビ管「エスロン®パイプ・+(プラス)」の発売 **1**

2019年 4月 生産子会社の経営統合および社名変更
～西日本積水工業株式会社を設立～

2019年 4月 施工の省人化に貢献する管路更生製品「SPR-NX」発売 **2**

2019年 5月 山梨積水株式会社で環境貢献設備が稼働開始



2018年度の業績

海外事業の順調な拡大で 国内汎用品の苦戦をカバー カンパニー最高益を3年連続更新

環境・ライフラインカンパニーの2018年度は、国内事業の汎用品が販売数量および、販売価格ともに苦戦しましたが、米国の航空機向け内装プラスチックシートなどの海外事業が順調に回復し、売上高はほぼ横ばいの2,392億円、営業利益は前期比2億円増の150億円となり、3年連続の過去最高益を達成することができました。

地域別の状況を見ると、国内事業では、高付加価値かつ成長が期待できる「重点拡大製品」は順調に拡大したものの、汎用品が苦戦したのに加え、IT投資の需要減によりプ

ラント配管事業が影響を受けました。海外事業では、航空機向けシート事業が順調に回復すると共に、シート事業、鉄道向け合成まくらぎの成長に向けた増産投資も完了し、業績貢献しています。

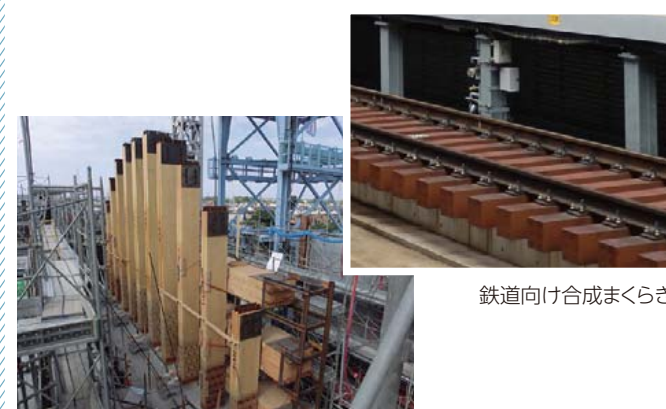
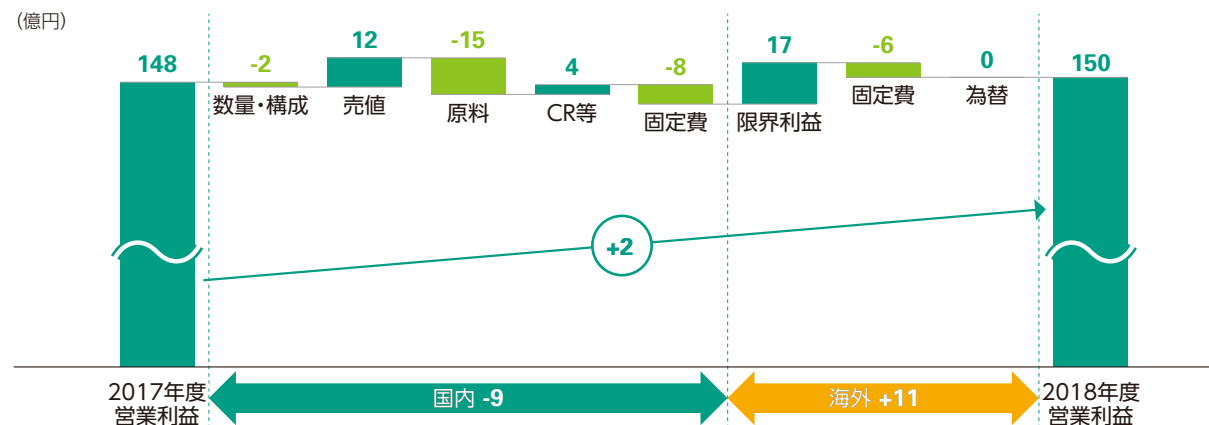
戦略3分野は成長ペース加速へ

当カンパニーは現在、「配管・インフラ」「建築・住環境」「機能材料」を戦略3分野に設定しています。戦略3分野の成長加速と、高付加価値かつ成長が期待できる「重点拡大製品」の伸長で中長期的な収益拡大を目指しています。

2018年度、「配管・インフラ」分野では、汎用品の苦戦はありましたが、省施工化に資する重点拡大製品、新製品、

管路更生資材などの販売が拡大し、売上高は前期並みとなりました。「建築・住環境」分野では、建材は災害復興需要もあり販売が好調でしたが、集合住宅着工数減少に伴うユニットバスの販売減少などにより、売上高は前期を下回りました。「機能材料」分野では、米国の航空機向け内装プラスチックシートの販売が順調に回復、欧州・米国中心に鉄道向け合成まくらぎの採用も拡大し、売上高は前期を上回りました。

2018年度営業利益の要因分析(前期比)



シールド工法用合成木材FFU

鉄道向け合成まくらぎ

2019年度の計画

海外での拡大継続と国内での 重点拡大製品拡販加速で、大幅増益を 達成し、4期連続の最高益更新へ

環境・ライフラインカンパニーの2019年度は、国内では重点拡大製品の販売拡大と新製品の投入を継続していきます。海外では前期に実施したシート、鉄道向け合成まくらぎの増産投資効果を発現させることで成長を継続していきます。これらの施策により、売上高は前期比48億円増の2,440億円を目指します。

一方で、前年度苦戦した国内の汎用品は、スプレッド改善を推進すると共に、生産再編や低採算事業に対する構

造改革を加速させます。これらの施策により、当期の営業利益は、前期比20億円増の170億円達成を目指しており、4期連続の最高益更新を狙います。

マーケットに適した製品で 重点拡大製品の拡大を加速

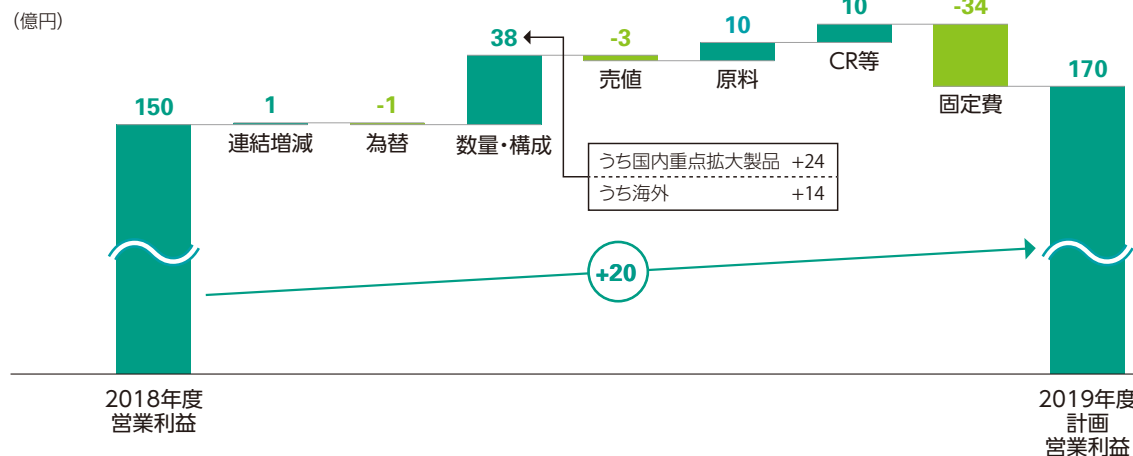
当カンパニーがターゲットとする土木工事などの「公共」分野、ビル建築などの「民間」分野、航空機シートや鉄道向け合成まくらぎなどの「海外」分野では、それぞれのマーケットで当社の強みを活かせる重点拡大製品の拡販に注力します。「公共」では、国土強靱化計画や3か年緊急対策

などでインフラの保全や強化に公共事業関係予算が計上されているのに対して、老朽インフラ対策に「管路更生工法」、シールド工事用途に「SEW(シールド工法用合成木材FFU)」など予算の目的に合う重点拡大製品の拡販を進めていきます。さらに、「民間」でも高層建築対応の耐震型給水管「ハイパーAWHP」や豪雨対策の「大型高排水システム」などに注力し、「海外」では難燃・高意匠の「航空機向け内装プラスチックシート」や環境規制に対応する「合成まくらぎ」など当社ならではの「際立ち」を活かした重点拡大製品を軸に採用拡大と拡販を進めていきます。

戦略3分野では、 「配管・インフラ」「機能材料」では増収を 「建築・住環境」では構造改革を

戦略3分野別にみると、「配管・インフラ」分野では大都市圏の建築市場向けを中心に、引き続き省施工化に資する重点拡大製品、新製品の販売拡大を図ります。また管路更生資材は引き続きパートナー戦略を推進します。「建築・住環境」分野では、構造改革による収益力強化および重点拡大製品、新製品(新住宅雨とい超芯レボル、看護施設向け大型浴室(KGS-F)、大型高排水システム)の販売拡大を図ります。「機能材料」分野では、航空機向け内装プラスチックシートについては、新規顧客獲得や用途開拓(建築・医療・鉄道)により、増産投資の効果を本格的に発現させます。鉄道向けの合成まくらぎについては、パートナー戦略推進により、欧州や米国など海外での採用拡大を目指します。

2019年度計画営業利益の要因分析(前期比)



事業活動を通じたSDGsへの貢献

～環境・ライフラインカンパニー～

安全・安心、快適の向上と環境負荷低減を実現

環境・社会課題
からのニーズ

主な当社コア技術

安全な水の供給

人手(労働力)
不足

防災・減災

環境負荷低減

インフラの老朽化

住インフラ
設計/解析

複合/分散
プロセス

インフラ/
産業用材料

管路
施工・工法



コア技術から生み出されるソリューションと環境貢献製品例

給水用ポリエチレン管「エスロハイパー」



優れた柔軟性と強靱な接合部分で、地震や地盤沈下による破損、漏水を防ぎ、安全な水を供給。軽量で省施工、耐腐食。

航空機向け内装プラスチックシート



難燃性、耐衝撃性があり、デザイン性に優れる。機材の軽量化に貢献し輸送機器の燃費向上に寄与。

鉄道向け合成まくらぎ

木材並みの軽量性と耐水性・耐久性を実現した樹脂製の軽量耐食構造材。防腐剤不要で、環境負荷を低減。



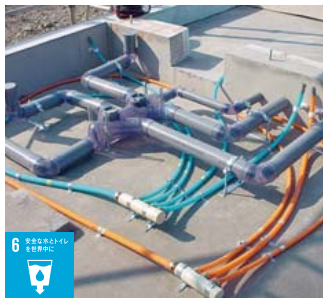
管路更生工法「SPR工法」

既設管の内側に施工。道路を掘り返さずに老朽化した下水道をリニューアルでき、省施工と廃棄物の大幅削減を実現。

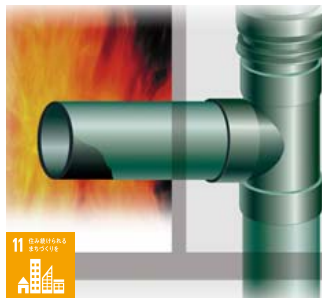


環境・ライフラインカンパニー

主な製品



住宅用給排水システム



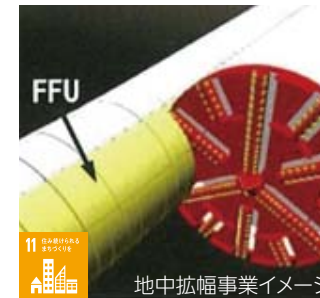
建物用の耐火パイプ



耐震型高性能ポリエチレン管



高耐食・耐薬品性能のプラント製品

SEW (シールド工法用合成木材
FFU)

航空機向け内装プラスチックシート



管路更生工法 (SPR工法)



意匠性向上の雨とい



機能性畳



鉄道向け合成まくらぎ

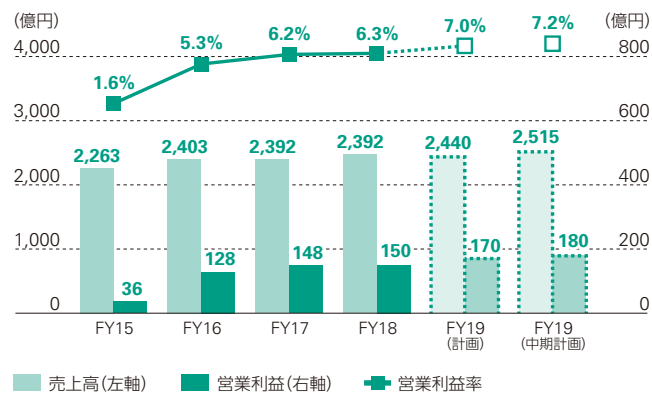


医療機器向けシート



医薬品などの保存・輸送用滅菌バッグ

業績推移

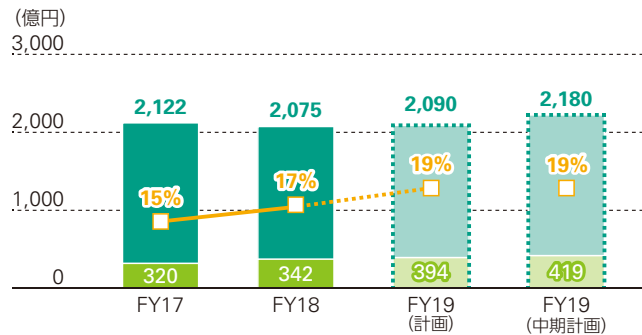


(億円)	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18
資産	1,988	1,791	1,939	2,071	2,167
EBITDA	96	134	195	214	222
減価償却費	62	64	64	64	70
資本的支出	154	85	67	98	139
研究開発費	51	53	57	61	59
従業員数(人)	5,453	5,044	4,789	4,945	5,139
連結子会社数(カッコ内は海外)	56(32)	43(19)	39(15)	38(15)	39(16)

環境・ライフラインカンパニー

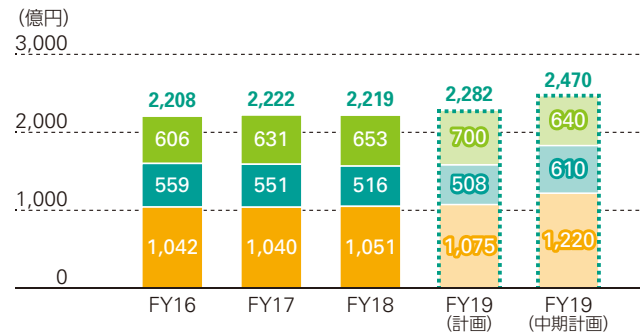
カンパニー関連指標

重点拡大製品※売上高



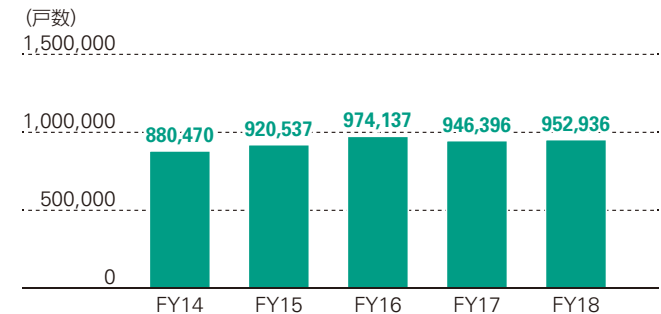
※重点拡大製品: 高付加価値、かつ市場成長・代替が見込める製品

戦略3分野売上高



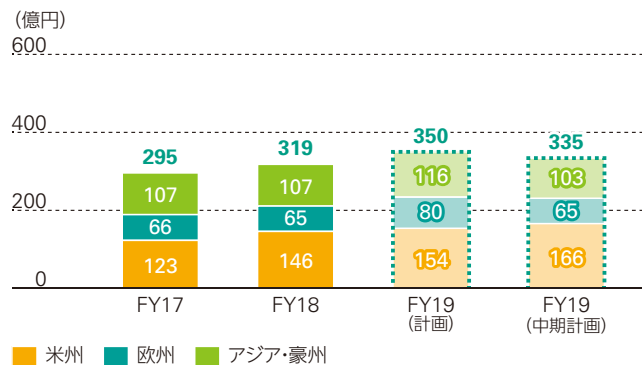
マーケットデータ

新設住宅着工



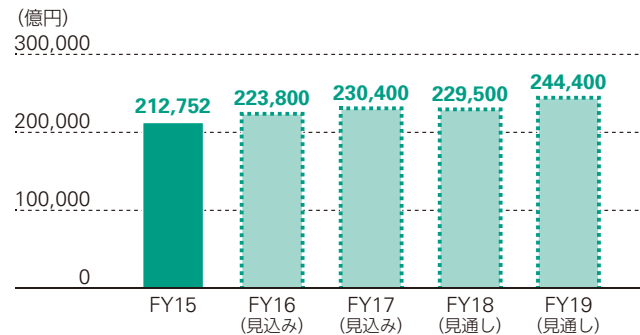
※国土交通省「住宅着工統計」

エリア別売上高(海外)



マーケットデータ

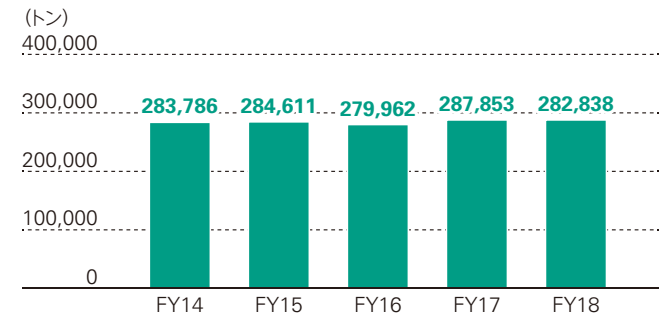
政府建設投資(名目値)の推移



※建設経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見通し」(2019年4月公表)

マーケットデータ

硬質塩化ビニル管出荷量



※塩化ビニル管・継手協会「塩化ビニル管出荷量」